

[パネルディスカッション] テーマ「これからの女性建築士のめざす道」



パネリスト

宗田 好史氏 (京都府立大学助教授)

柳川 陽文氏 (大阪府建築士会会長)

村上美奈子氏 (初代連合会女性委員長、東京建築士会)

宮本 伸子氏 (第 4 代連合会女性委員長、東京建築士会)

定行まり子氏 (連合会女性委員会委員長)

コーディネーター

平内 節子 (連合会女性委員会副委員長)

今年度、全国女性建築士連絡協議会は 21 回目を迎え、改めて私たちがなすべき方向性を問いただす時がきました。諸先輩の話をもとに、女性建築士としての今後のあり方について共に考えましょう。

全建女のあゆみ

77 名参加の東京大会から、今や 400 名を越える参加者が集い、女性建築士の総数の増加と共に益々活気ある大会として発展している。

住宅やまちづくりに生活者の視点が見えない

女性建築士が働きやすい、活動しやすい環境づくりを

高齢化問題からバリアフリー

健康問題から環境共生・シックハウス・素材

歴史あるまち並み保全・子供と住環境

社会性を持たない男社会の働き方

仕事として地域に入る男性

異なるスタンスの発想とニーズが

仕事上や一般社会でも必要

クライアントが相談しやすいのは女性

土日・夜間労働など健康被害の実態

不景気では女性が先に落とされる

仕事と家庭に優劣はない

生活者の視点で身近な環境・健康・コミュニティ

建築文化への専門家としての貢献度は誇るべきもの

各单位士会・各ブロックの女性部会

設置の促進および支援

常に時代を先行するテーマに着目し

社会へ発信

地域社会・仕事・家庭 ワークライフバランスを

男性は価値観を変える努力、社会に順応する必要がある

男性社会の中で男性と異なる発想とニーズが

十分に汲み上げられる社会に「する」事が求められている

建築士という職業は女性にむいている

労働環境の整備・

就職問題の改善

マイナーであった価値観が社会の変革期に注目される

女性ならではの感性を大事に

女性建築技術者としての

リーダーシップが求められている

これからの全建女に期待すること

活動の情報交換の場である全建女が、相互啓発の

素晴らしい機会であることを実感!



女性の視点で、社会へのメッセージを出す

プラットフォームとしての

全建女の意義は大きい!!!